印象に残る漫画

沖縄赤十字病院　産婦人科　正本　仁

今でこそ趣味は読書と言うことにしているが、小学生の頃は漫画を読むのが好きであった。「漫画を読むと馬鹿になる」という迷信を固く信じていた両親の下では、月刊誌であった「冒険王」しか買うことができず、友達の漫画をよく回し読みしていた。

そのころ読んだ漫画の中で、結末がバッドエンドのため印象に残っている作品を3選してみた。

①「あしたのジョー」作画：ちばてつや．少年マガジン連載．

「巨人の星」と並ぶ昭和スポーツ漫画の金字塔。孤児であった矢吹 丈が元ボクサーの丹下段平と出会い、プロボクシング世界チャンピオンを目指す物語。コアなファンが多く、作中でライバル力石 徹が死去となった際には、一部ファンにより実際の葬儀が行われた。また、よど号ハイジャック事件の犯人たちは犯行声明の末尾に「我々はあしたのジョーである」という一文を記した。最終回では、既にパンチドランカーとなっていたジョーが、世界タイトル戦で判定負けし、目を閉じたままコーナーにうずくまる画に「燃え尽きて真っ白な灰になった」との独白が付記されて終わっており、ジョーが絶命しているのでは、との議論を呼んだ。

②「デビルマン」作画：永井豪．少年マガジン連載．

悪魔に乗り移られた不動 明少年が、それを克服し悪魔族の勇者アモンの体と能力を手に入れ、人類滅亡を狙うデーモン一族と戦う物語。当時の正義のヒーローたちとは一線を画し、悪魔をモチーフとした怪しげな風貌が話題となった。最終回では、人類が滅亡しデーモン一族との最終決戦に敗れたうえ、敵の長が共に戦ってきたはずの無二の親友だった事が明らかとなる。

当時自宅学習帳や連絡帳の表紙にデビルマンを書きまくっていたほどのファンだった私にとっては、かなり受け入れ難いエンディングであった。

③「侍ジャイアンツ」作画：井上コオ．少年ジャンプ連載．

球界でほぼ無名の野球少年であった番場 蛮が巨人軍に入団、数々の魔球を編み出し、ライバルたちとの対決を通してエースへと成長する物語。やや遅れて始まったテレビアニメ版は、今週初披露した魔球が次週には打たれるという速攻型のストーリー展開であった。編み出した魔球でライバル打者と対決する筋は先行する「巨人の星」と類似していたが、主人公のキャラクターは巨人の星の星 飛雄馬がストイックであったのに対し、本作品の主人公は型破りな性格で、内容もギャグ漫画の要素を含んでいた。にもかかわらず、最終回では魔球の多投による心不全のため主人公がマウンドに立ったまま絶命するという、これまでの展開を全く無視したかのような唐突な結末であった。なお、主人公は打撃に関しても非凡な才能を見せており、当時友達と「プロ野球でエースでホームランバッターとかあり得ないよなー。」と話していたが、あれから40数年、まさかそれを現実のものとする男が出てこようとは。

私と近い年代の先生方には、上記の作品をよく覚えておられる方も多いかと思います。医師会雑誌に投稿するには少々気が咎める内容かとも思いましたが、休憩時の話題として軽く読んでいただければ幸いです。